

小学校

平成 7 年 度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成7年度

教育研究員名簿

分科会	地区	学校名	氏名	分科会	地区	学校名	氏名			
第三学年	港区 品川北 足立 江戸川 三鷹 国分寺	御田小	持丸 博江	第五学年	新宿 文京 世田谷 杉並 練馬 葛飾 江戸川	戸塚第二小	◎不破 淳一			
		清水台小	町田 恭子			誠之小	増田 礼子			
		滝野川第二小	○新貝 朗			砧小	梨岡 基雅			
		宮城小	星崎 誠			杉並第四小	水盛 一樹			
		篠崎小	山下 宗孝			関町北小	清水 仁			
	台東 江東 世田谷 渋谷 中野 練馬 八王子 小平 稲城	富士小 砂町小 駒沢小 大和田小 江古田小 立野小 第五小 小平第一小 稲城第五小	青山 隆博 駒野真理子 瀬川 雅之 岩切 洋一 伊藤 格 岩本 義廣 宮沢 哲 赤石 由美 ○渡邊由美子		府中 町田 東村山 福生 瑞穂	南葛西第三小	二上小	倉田 克彦		
							井口小	舟崎 照剛	南葛西第三小	○大関 房代
							第八小	蟻川 剛	府中第九小	荻原 恵子
									本町田西小	伊藤 文博
									野火止小	関根 信人
第四学年	中央 大田 豊島 板橋 足立 日野 保谷	有馬小 池上第二小 大塚台小 若木小 辰沼小 仲田小 住吉小	島田 和久 高鍋 尚嗣 難波 明夫 唐澤 邦男 澤田 真一 ○小山しおり 渡邊 建	瑞穂第二小	青木 茂男					
					小林 卓					
					青木 茂男					

◎全体世話人

○分科会世話人

担当 教育庁指導部初等教育指導課指導主事 向山行雄

目 次

I 共通研究主題

児童一人一人が社会的事象と自分とのかかわりについて主体的に追究し、社会的な見方や考え方を自ら深めていくための評価と支援の工夫

II 研究の内容

- ① 第3学年分科会 児童一人一人が、自分たちの地域社会のよさに気付くための体験的な学習の在り方と評価・支援の工夫 …………… 2
- ② 第4学年分科会 児童が社会的な見方や考え方を自ら深めていくための調査・観察活動の工夫 …………… 7
- ③ 第5学年分科会 児童一人一人が産業や国土の様子について、自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の工夫
— 「話し合い活動」を通して — …………… 13
- ④ 第6学年分科会 児童一人一人が、歴史的事象に対する自らの問題を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の工夫 …………… 19

< 概 要 >

- 社会の成熟化は、児童の日常生活と生産活動の場との距離を広げ、しかも社会的事象を複雑で多様なものになっている。そこで、これからの社会科学習では、児童の生活と社会的事象とのかかわりについて考慮し、児童の社会的な見方や考え方を育てるための教材の開発や学習活動の工夫を進める必要がある。
- 月2回の学校週5日制の実施においては、児童の学校外での生活の時間が増大するため学校外での体験の質と量の差はますます増大する。そのため、これからの社会科学習では児童が共通に学習できる問題を設定し、児童が相互に啓発しあう授業への改善を図る必要がある。そこで教師が評価と支援の工夫を努め、児童の社会的な見方や考え方を深めるとともに、互いに学び合う授業づくりを目指した。
- 研究の推進に当たっては、全体研究主題を設定し、それを受けて四つの分科会がそれぞれ研究主題と仮説を立て、先行研究に学びながらも主に授業実践を通して仮説の検証を行い、主題に迫るように努めた。

I 研究主題設定の理由

本主題設定の理由の一つ目は、今日の社会科教育の課題からである。学習指導要領の第3学年の目標では、「地域社会の成員としての自覚を育てる」「地域社会を大切にする態度を育てる」「地域社会の社会的事象の特色を考えるようにする」とされているが、何をもって、これらの目標に迫るかの手だてを考えることが重要である。そこで、第3学年分科会では、児童が自分たちの地域社会のよさに気付くように工夫すれば、ここで示されているような「自覚」や「態度」、「考える力」が、育つのではないかと考えた。つまり、児童は自分たちの地域社会のよさに気付くことによって、自分たちの地域社会を好きになる。地域社会を好きになれば、「地域のために自分は何ができるか」という自覚、「地域を大切にしていこう」という態度、土地の使われ方や地域の移り変わりの様子から自分たちの地域の特色を考える力が育っていくと考えたからである。

二つ目の理由は、児童の実態からである。第3学年の児童は、生活の場である自分たちの地域社会についての理解が十分ではない。そこで、「地域の社会的事象と自分とのかかわりに気付いたとき」、「社会的事象に主体的に働きかけたとき」に、おのずと「自分たちの地域社会のよさ」に気付いていくのではないかと考えた。つまり、地域社会が自分や自分たちの生活と密接に関係していることに着目したときに、児童は「自分たちの地域社会のよさに気付く」のではないかととらえたからである。地域と自分とのかかわりに気付くことは、今後、地域社会で生活する児童にとって「生きてはたらく学力」となると考える。さらに、第3学年の児童は、一般に非常に活動的であるという実態を生かし、自分の体全体を使った活動を学習の中に組み入れることが大切である。「体験的な学習」は、生活科での学習活動を土台としているばかりでなく、地域社会と自分とのかかわりを児童が容易に感じとるためにも効果的であると考えた。

三つ目の理由は、これまでの中学年分科会の研究員の研究の成果からである。「地域社会のよさ」の発見につながる体験的な学習の分析を参考にしたうえで、「地域社会のよさに気付くための体験的な学習」の在り方を考え、「体験的な学習」における評価・支援の在り方の研究を試みることにした。つまり、今年度は各単元での「体験的な学習」における「評価・支援」にしばって研究することによって、「地域社会のよさ」に迫ろうと考えたのである。以上のような理由から本研究主題を設定した。

II 研究のねらい

児童一人一人が自分たちの地域社会のよさに気付くための体験的な学習と評価・支援の在り方を明らかにする。

III 研究の仮説

具体的な物や人とかかわることのできる学習活動の在り方を工夫し、児童一人一人の思いや考えを大切にする評価・支援を行うことによって、児童は地域社会のよさに気付くことができる。

IV 研究の内容

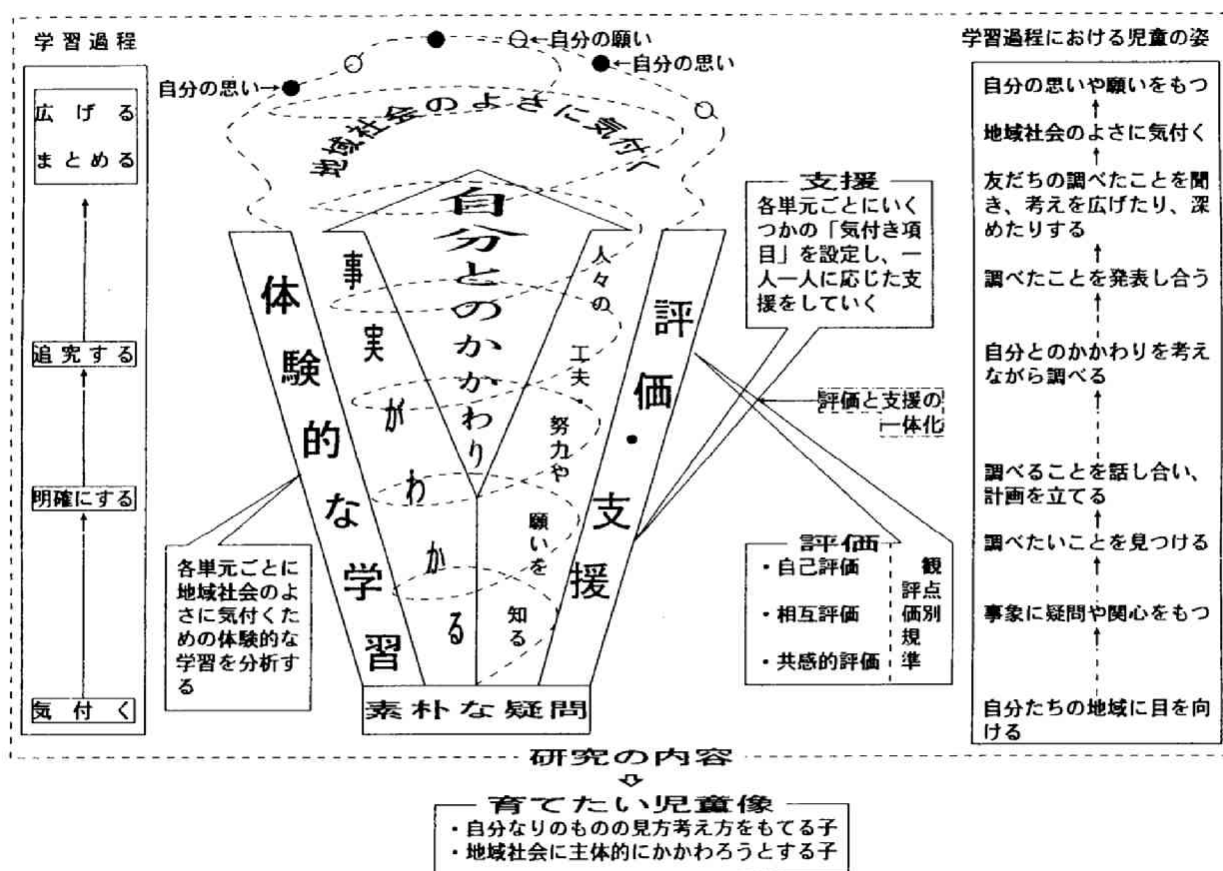
1 研究構想図の説明

本研究では、児童の思考は下図のように、学習過程が進むにつれて下から上へとらせん状に上がっていき、やがて、目標としている「地域社会のよさに気付く」ことができるにとらえている。

児童の思考の流れを考えてみると、まず、児童は新たな社会的事象に出会うと「素朴な疑問」をもつ。そして、「事実がわかる」「人々の工夫・努力や願いを知る」という学習を何度も繰り返していく中で、「自分とのかかわり」を次第に強く意識し、考えを広げたり深めたりしていく。このような学習過程を進めることにより、「地域社会のよさに気付く」段階に到達すると考えた。さらに、その上で児童は地域社会に対して自分の願いや思いをもつようになることを期待している。

こうした児童の学習過程を支えるのが、「体験的な学習」と「評価・支援」であると考えた。「体験的な学習」は、各单元ごとに地域社会のよさに気付くためにはどのような活動が適切であるかを分析して設定する。「評価・支援」は、これも各单元ごとに地域社会のよさに気付くことに関連した「気付き項目」を設定して評価し、その評価を基に児童一人一人に応じた支援を行っていく。そして、常に評価と支援の一体化を図っていこうと考えている。

構想図に対応するように左右に掲げた「学習過程」と「児童の姿」は、一般的に考えられる児童の思考を想定したものである。ただし、児童の思考は常に一定の筋道で展開するものではなく、発達段階、教材の内容等のさまざまな条件により変化するものであるから、学習過程は柔軟な考え方で対処していくことが必要である。



2 地域社会のよさと体験的な学習のつながり

それぞれの地域には、施設、地形、交通、消費生活、生産活動などの点で特色が見られる。また、地域で生活している人々は、この特色を生かしながら生活の向上や住みやすい環境づくりを目指して、常に工夫や努力をしている。地域で見られるこれらの特色や、特色を生かした生活を営んでいる人々の姿を、地域社会のよさととらえることができる。

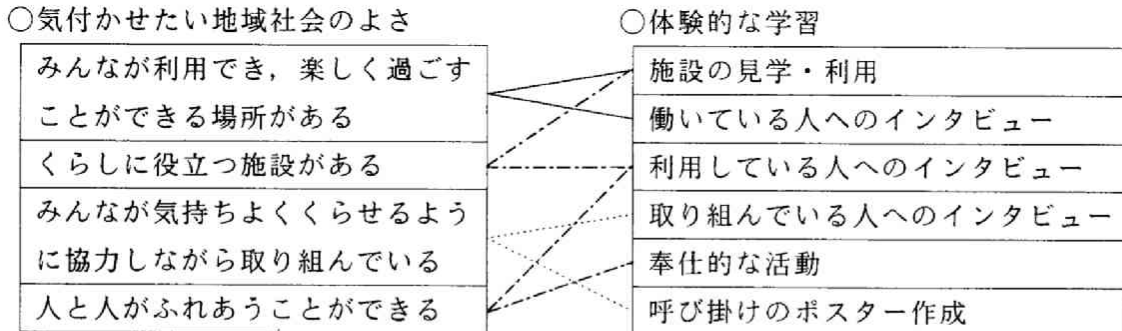
この地域社会のよさに気付くためには、「社会的事象がわかる」「地域の人々の工夫・努力や願いを知る」学習が大切である。この学習を進める過程で、児童が地域の社会的事象と自分の生活とのかかわりを強く意識したときに、「地域社会のよさ」に気付くことができると考えた。

そこで本分科会では、地域の社会的事象と自分とのかかわりを強く意識できる手だてとして体験的な学習を研究の中心に据えた。児童が実際に見たり、触れたりする体験的な学習は、社会的事象と自分の生活とのかかわりの発見につながり、やがて、地域社会で生活を営んでいる人に対する共感的な理解と存在する施設やものへの愛着を生み、地域社会のよさに気付くと考えられたからである。

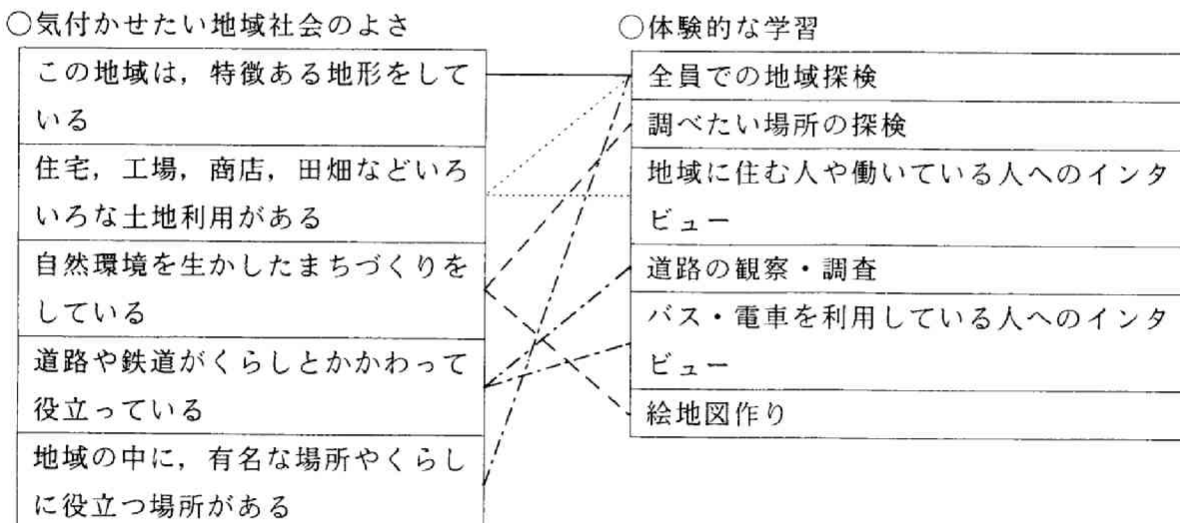
それぞれの單元ごとに気付かせたい地域社会のよさを明確にしたものと、その單元でそれぞれの地域社会のよさの発見に特に有効であると想定される体験的な学習を結び付けたものが、下記の図である。

<地域社会のよさと、よさの発見につながる体験的な学習の具体例>

(第1單元「すみよい町に」)



(第2單元「わたしたちのすんでいるところ」)



3 実践例 第3单元「商店がいとわたしたちの暮らし」

本单元では、気付かせたい地域社会のよさを以下のように考えた。そしてこれらに気付くことができるようにするために四つの体験的な学習を取り入れ実践した。それぞれの体験的な学習で、主として地域社会のよさのどの点に気付かせたいのかという目的を明確にして実践した。

気付かせたい地域社会のよさ	① スーパーマーケットや小売店、コンビニエンスストアなど種類の違う店があり、目的に合わせて店を選ぶことができる。 ② 身近な場所で、生活に必要な物をほとんど手に入れることができる。 ③ 地域の人々と顔なじみの店があり、安心して買い物ができる。 ④ 品質や値段を比べながら買い物ができる。 ⑤ 豊富な品ぞろえ、安売り、夏祭り・歳末セールなど店の人達の工夫や努力があり、買い物を楽しむことができる。 ⑥ 自分たちの地域は、店を通じてよその地域ともつながりがある。
---------------	--



<体験1> 買い物調べ	
児童は、家の人々が日常よく利用する店や購入する品物、購入の仕方など自分の家の買い物傾向をつかむことができた。そして、それを友達同士で比べてみるにより類似点や相違点を見つけることができ、なぜだろうという疑問や調べてみようという追究意欲をもつことができた。	
気付かせたい地域社会のよさ	①②⑥

<体験2> 家の人へのインタビュー	
この体験で、児童は、家の人々が店を選びながら買い物を理由や品物を選ぶときに気を付けていることなど買い物の工夫をとらえることができた。家の人々の買い物の工夫を強く感じ取った児童は「お母さんは買い物名人だ」と共感的理解を示した。調べて分かったことを発表し合うことで、地域にあるいろいろな店の特徴についても学ぶことができた。	
気付かせたい地域社会のよさ	①②③④

<体験3> スーパーや商店街の探検	
ほとんどの家庭が利用しているスーパーは、児童にとって自分とのかかわりが強く、熱心に探検してたくさんのお宝を発見することができた。とくに店の人から工夫や努力にかかわる話を直接聞くことによって感じた驚きや喜びは大きかった。	
また、商店街の探検では商店会の組織や「金・土シールサービス」など店の人々の協力や工夫について知ることができ、地域にあるいろいろな店に対する認識を深めていくことができた。	
気付かせたい地域社会のよさ	⑤⑥

<体験4> 買い物体験	
今までの学習を生かし、実際に自分たちがサンドウィッチを作るための材料を買いに行った。地域にあるスーパーや八百屋などの店に直接かかわりながら、品質や値段を比べて買い物をすることにより、地域社会のよさに気付くことができたばかりでなく、「パンや肉の専門店があるととっても便利になるのにな」といった思いや願いをもつ児童が見られた。	
学習のまとめとしての家の人への手紙には、この買い物体験によって実感できた店のよさやお母さんのように買い物上手になりたいという願望を書く児童が多かった。	
気付かせたい地域社会のよさ	①③④

4 評価・支援の工夫

各単元ごとに気付かせたい地域社会のよさについて項目を明確にし、それを実現するための体験的な学習を考えた。さらに、体験的な学習を通して児童に気付かせたい項目を設定し、ワークシートなどでとらえ、支援の計画表を活用して評価した。そして、一人一人の児童に応じた支援をしていくことを考えた。具体的な取り組みとしては、次のようなものである。

(1) 支援の計画表《商店がいとわたしたちの暮らし》（地域社会のよさについてはp5を参照）

買い物調べ		★評価項目 《自分の家や学級全体の買い物の傾向に気付く》		
地域社会のよさ	店の種類・目的に合った店選び	身近な場所で品物が手に入る	他地域とつながりがある	評価・支援
気付き項目 児童名	目的に合わせて利用する店が決まっている	食料品や日用品は近くの商店や商店街で買い物をしている	品物によって遠くの商店や商店街を利用している	
A 児	○			自分が利用する店にだけ注目しているので、探検によって商店や商店街のよさに気付く。
B 児	○	○		近くの商店や商店街はよく利用している。他地域とのつながりにも目を向けるようにする。
C 児	○	○	○ M商店街	日頃よく買い物をしているので、学級の買い物の傾向について多面的にとらえている。

(2) 支援の計画表を活用した評価支援

	買い物調べ	インタビュー	探検	買い物
A 児	自分がよく利用する店にだけ注目していたので、友達の表と比べながら他の商店や商店街のよいところにも目を向けるように助言した。	家の人が目的に合わせて店を選んでいることは分かったが、品質を考えて買い物をしていることに気付いていないので、上手な買い物の学習で考えるようにした。	スーパーや商店街の探検は自分なりにめあてをもって取り組み、商店街のよさに気付いた。売る側の工夫や努力についても調べるように助言した。	買い物の計画や買い物の体験を通して、目的に合わせて買い物をしていることが分かり、品質を調べることの大切さも理解することができ、上手な買い物に対する意欲が高まった。
B 児	日ごろから買い物をよくしているので、店の種類や場所、利用する理由などから気付いたことを積極的に発表した。意欲を大切にしていきたい。	家の人に聞いたことだけでなく、商店や商店街のよさについて自分なりの考えもくわしくまとめていたので学級全体に紹介し賞賛した。	店の人や買い物客へのインタビューを意欲的に行い、地域と自分とのかかわりについて認識を深めていた。さらに、追究意欲を高めるように促した。	買い物の前に店に行って品物の価格を調べたり、広告を集めたりして、情報を収集し、買い物の時にはそれを生かして上手な買い物ができるように努力していた。

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 各單元ごとに「地域社会のよさ」を明確にし、自分とのかかわりを大切にした体験的な学習を設定したことで、一人一人の児童は、地域に生活している人や存在する施設や物に愛着を感じるようになってきた。そして、学習したことを生かして、地域社会に働きかけようとする態度が育ってきた。
- 「気付き項目」を設定したことは、評価の観点を明確にし、児童一人一人に対しての評価を的確にするだけでなく、実態に即した支援をも可能にした。そして、児童一人一人が地域社会のよさに気付いていく経過を把握することができた。

2 今後の課題

- 体験的な学習について「気付き項目」を作成し、評価と支援の一体化を目指して研究を進めてきた。今後は「気付き項目」の内容の充実や更により活用方法などを考えて、実践に生かすとともに、他の学習活動における評価と支援の在り方も研究していきたい。
- 「地域社会のよさ」に気付くようにするためには、常に、地域の社会的事象と自分とのかかわりを意識させることが大切である。そのために、地域の実態を考慮し、学習過程に位置付けた体験的な学習を考えていきたい。

研究主題

<第4学年分科会>

児童が社会的な見方や考え方を自ら深めていくための調査・観察活動の工夫

I 研究主題設定の理由

児童が自らの意思で学習のねらいに迫り、問題を解決していく中で、社会的な見方や考え方を自ら深めていく社会科の学習が求められている。しかし、今日の社会科学習では意欲をもって主体的に学習する場面が必ずしも十分ではない。

そこで本分科会では、この課題を踏まえて「調査・観察活動」を重視し、その在り方や有効性などを明らかにしていくことにした。

本研究の主題設定の理由は以下の通りである。

第一は、これまでの研究員中学年分科会の研究の経緯を踏まえた結果である。昨年度の研究集録には「～児童の追究過程には個人差があり、ひとくくりにはできない。今後は児童一人一人が問題解決、自己実現が図れるよう、複線型や選択型の追究過程を工夫し、個人差に応じていきたい」という記述がある。個人差に応じた追究過程として調査・観察活動は最適であると考えられる。各々の児童が問題意識に応じて問題解決を図っていけるからである。

しかし、過去の調査・観察活動の事例を検討した結果、これまで行われてきた学習方法には、次のような問題点があることが明らかになった。

- ・ 単元ごとの調査・観察活動の回数が少なく、そのため社会的事象を実感的にとらえにくい。
- ・ 社会的事象に対する児童の問題意識が弱いまま、調査・観察活動を行うことが多い。
- ・ 学習問題が一人一人の児童に十分に成立していない。

例えば小単元「ごみと住みよいくらし」の実践では、学習計画の中に2回の調査・観察活動が予定されていた。この場合、児童は1回目の調査・観察活動で様々なものを調べてこななければならない。ある児童はごみ集積所の位置、収集日、分別の内容等、数項目をメモしてきた。しかし、その後の発言等を検討すると、児童の中でそれらが十分に定着できているとは言い難いものがあった。

また、ある児童は広範囲のことを調べているうちに最初の問題意識が不明瞭になってしまった。そのため調べた結果も、社会科の学習に、あまり意味のある内容とは言えないものになったのである。

つまり、上記のような問題点を解決できる調査・観察活動を明らかにしないと、児童の社会的な見方や考え方が深まることは難しいと考えたからである。

第二の理由は、活動的な学習を好むという4年生児童の特性を生かすためである。中学年の児童は何かに対して疑問を持った時、机上で学習するだけではなく、実際に見る・触れるなどの感覚に頼りながら考えていくことが多い。例えば「学校内の消火器のある場所には何か秘密があるのか」という問題を考える時、児童はただ予想をたてるだけではなく、すぐにも見に行こうとする。そして、その場でいろいろと観察をして、様々な見方や考え方をするようになる。つまり、自らの問題意識を基に、実際に行動できる調査・観察活動は児童の学習への意欲を喚起する上で、有効な学習方法であると考えたからである。

第三の理由は、児童一人一人に学び方・調べ方を習得させるためである。前述したように発達段階の上で最も調査・観察活動に意欲を示すと思われる時期に、様々な調べ方を体験させることで、児童は自分に適した調査の手順を見つけることができる。例えば、ある児童は電話によって調査先に幾つかの簡単な質問をし、次にファクシミリによって詳細な質問を行う。これらの調査によって得た大まかな知識をもとに現地調査を行う。このような形で調査するのが最も自分に適した方法であると自覚したとする。すると、その後、何かの問題に直面した時にも、それらの方法を駆使しながら、自力で疑問を解決していくことができるようになる。このことが、これからの社会科学習にとって大切なことであると考えたからである。

以上の理由により、第4学年分科会では標記の研究主題を設定した。

II ねらい

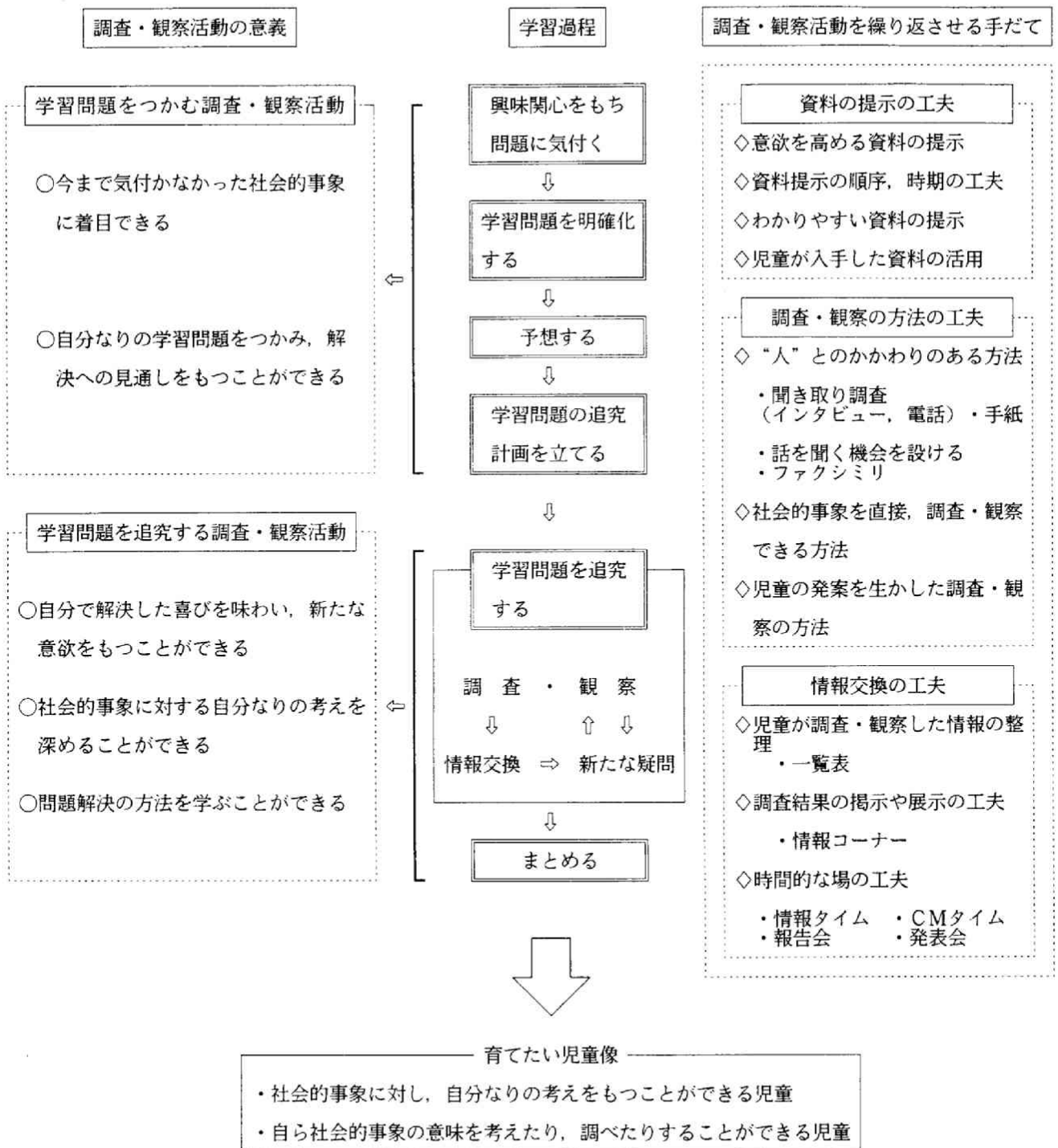
児童が社会的な見方や考え方を自ら深めていくための、調査・観察活動の在り方を明らかにする。

III 研究の仮説

社会的な事象に対し、児童が自ら調査・観察活動を繰り返し行えるようにすることによって児童は社会的な見方や考え方を深めることができる。

IV 研究の内容

1 研究の構造



2 調査・観察をくり返させる手だて

研究を進める中で「資料の提示の工夫」、「調査・観察の方法の工夫」、「情報交換の工夫」の三点が調査・観察を繰り返させる手だてとして有効であることが、明らかとなってきた。一つの単元の学習の中で、この三つの工夫を効果的に組み合わせ実施することで、児童は意欲的、自主的に調査・観察活動を繰り返し、社会的な見方や考え方も深めていった。

(1) 資料の提示の工夫

資料は、児童の学習活動に対する意欲や興味、関心を生み出し、調査・観察の内容をも決定付けるものである。

どのような内容の資料を、いつ、どんな形で提示すれば、児童が学習問題を的確につかみ、調査・観察を繰り返して問題を追究していけるか、実際の授業を通し検証を進めた。

(2) 調査・観察の方法の工夫

実地調査、聞き取り調査、文献調査など様々な調査・観察活動を実際に体験させ、その方法を学ばせていくことは大切である。しかし児童の発達段階に適した方法でないと、調査・観察はごく表面的な内容にとどまってしまう。

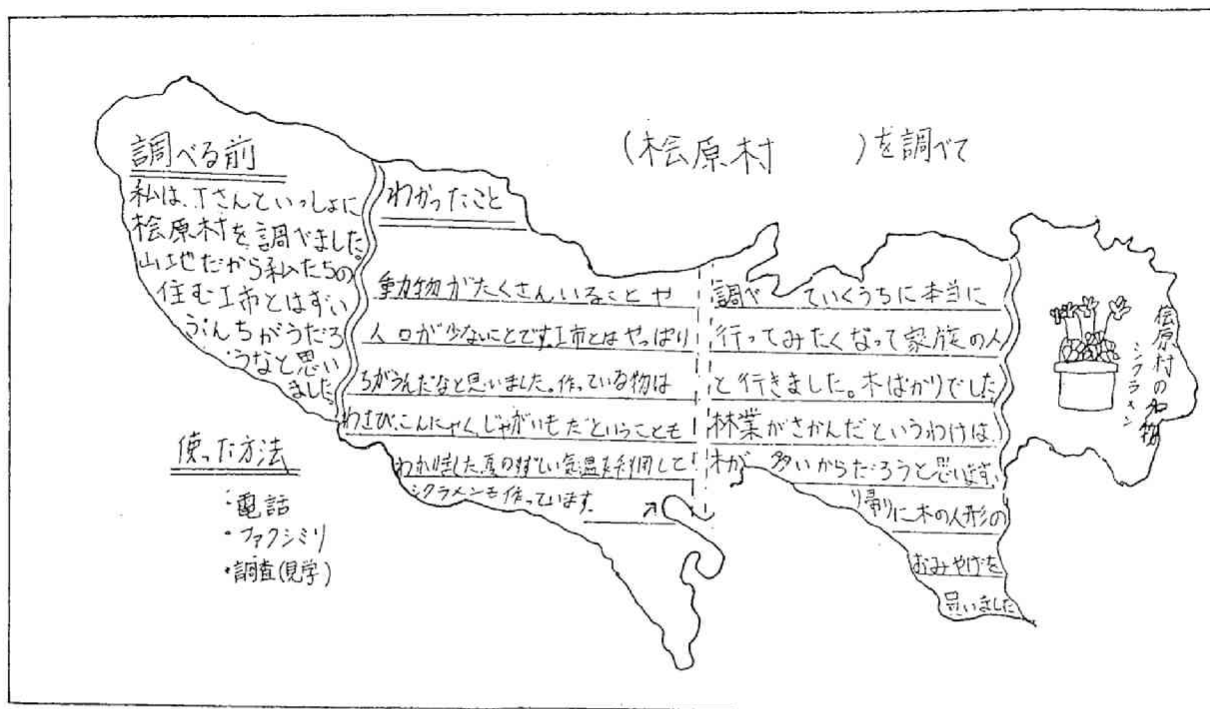
そこで、様々な方法を体験させていくことと同時に、第4学年の児童が自ら“調べたい”“もう1度調べてみよう”と思えるような調査・観察の方法を工夫した。

(3) 情報交換の工夫

調査・観察を繰り返しながら学習活動を進めていくと、児童の興味、関心は徐々に広がり、学習の進度もまちまちとなる。

そこで調査・観察活動を進めながら、分かったことや疑問点を集約し、児童の見方をしだいに学習問題へ向けていかななくてはならない。また、お互いに新しい情報を得たり、新たな疑問をもったりすることができ、さらに調査・観察を繰り返す意欲をもてるような、時間や場所の設定が必要であると考えた。

(4) 児童の作品例 [わたしたちの東京 —— まとめ ——]



3 調査・観察活動を繰り返すことができるようする手だての意義

A 資料の提示の工夫	それぞれの手だての持つ意義
A-①意欲を高める資料の提示 →	・児童の興味・関心を引き付け、社会的事象に着目する
A-②資料提示の順序・時期の工夫 →	・児童の問題解決意欲が持続し、新たな意欲をもつようになる
A-③分かりやすい資料の提示 →	・問題解決が容易になり、新たな課題をつかみやすくする
A-④児童が入手した資料の活用 →	・主体的に学習に参加する満足感を味わえる
B 調査・観察の方法の工夫	
B-①“人”とのかかわりのある方法 →	・調べたいことについて直接解答が得られ、調査の成就感を味わうことができる ・人とのつながりができることにより、繰り返し調査がしやすくなる
(a) 聞き取り調査 (b) 手紙 (c) ファクシミリ (d) 話を聞く機会を設ける	
B-②社会的事象を直接観察できる方法 →	・興味、関心を強く抱き、多くの情報を直接得ることができる
B-③児童の発案を生かした調査・観察の方法 →	・自らの方法で調べることにより、調査の成就感を味わうことができる
C 情報交換の工夫	
C-①児童が調査・観察した情報の整理 → ・一覧表	・社会的事象の特色や調査の視点が明らかになり、更に調べる意欲をもつ
C-②調査結果の掲示や提示の工夫 → ・情報コーナー	・情報交換を常時行うことができ、新たな情報を得て更に発展的に調べる意欲をもつ
C-③時間的な場の工夫 →	・他の児童の調査内容や方法を知り、新たな情報を得たり自己評価したりできる ・調査内容を短時間で報告する ・調査項目や方法について短時間で報告する ・ある程度追究が進んだ段階で報告する ・まとめの段階で発表する
(a) 情報タイム (b) CMタイム (c) 報告会 (d) 発表会	

4 社会的な見方や考え方の深まりの例（※『A-①』等の記号は11ページと対応している）

火事をふせぐ	現代の開発	わたしたちの東京
<p>A-① 意欲を高める 資料の提示 【消火活動の写真4枚を見せた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電線が燃えている。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火事で電線が燃えてしまったら、他の家も困るだろう。そういう時どうするのか電力会社に聞いてみよう。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・そうか、火事の際は消防署だけでなく、他の機関と連絡を取り合っているから、火事の現場には電力会社の車も来るんだね 	<p>A-④ 児童が入手した 資料の活用 【D児が撮影した恵比寿ガーデンプレイスの写真を資料として活用した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつ、誰が作ったのかな <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【E児が調査に行って得た資料を全員に配付した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都や渋谷区は関係しているのかな。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【F児が入手した目黒区の資料を提示した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区は地域の人の考えを聞いて計画したのかな 	<p>B-① “人”とかかわり のある方法 【東京の各地域についての疑問を電話やファクシミリを使って問い合わせた】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・檜原村は林業がさかんと書いてあったよ。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林業って何だろう。行って聞いてみよう。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山に木がたくさんあった。その木を使って材木を作るのだとわかった。
<p>B-② 社会的事象を 直接観察できる方法 【地域の消防施設を直接観察する】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域もやっぱり消火栓が多かった。場所が分かるように標識も大きいね。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大体、同じ位の間隔で消火栓が配置されていたよ <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・届かない所へはホースを継ぎ足して届かせるんだね。どこで火事が起こっても大丈夫のように考えて消火栓は配置されているんだね。 	<p>玉川上水を開く</p> <p>A-② 資料提示の 順序・時期の工夫 【玉川上水の概要を掴む資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉川上水はどんな工事をしたのかな <p style="text-align: center;">↓</p> <p>【次の問題が掴める資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・玉川上水の工事の時、赤土に水がしみ込まないようにするためにどんな工夫をしたのかな。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土づちなどを使って工事をすると、昔の人はいろいろ工夫をしたんだな 	<p>C-① 児童が調査・観察した 情報の整理 【調査結果を一覧表に整理した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台地では夏にトマトを作るけど島では冬に作っている。 <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ作る時期が違うのか <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島では暖かい気候を利用しているんだな。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>C-② 調査結果の 掲示や展示の工夫 【調査結果を情報コーナーに掲示した】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A島は台風の被害が凄い <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・でもB島では台風の雨水を利用しているんだって

V 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 興味や関心を抱かせる資料を丁寧に見せることにより、児童は社会的事象に着目するようになった。また児童の意欲の持続のためには資料提示の順序、時期の工夫が重要であった。
- 調査・観察する活動は児童の社会的事象へのかかわりを深めるきっかけとなった。また電話、手紙、インタビュー、ファクシミリなど“人”との触れ合いが得られる通信手段を、繰り返し利用するなかで、人々の苦労や工夫までも思いをもつことができるようになった。
- 児童は互いに調べたことを交換し合うことにより、次の調査への意欲をもつようになった。一人一人が調査した情報を一覧表にまとめ比較関連させたことにより、それぞれの特徴をつかむことができ、新たな調査への視点が明確になった。情報交換の場の工夫は、一人一人の児童の調査意欲を高めることになった。
- 調査・観察活動の繰り返しのなかで、児童は視点を確かなものにしていった。そして社会的事象からその特色や意味、つながり、理由などをとらえていくようになった。

2 今後の課題

- 調査・観察活動を繰り返し行うために、見通しを持った時間の設定と単元に適した方法の工夫が大切であり、年間指導計画の中で位置付けていく必要がある。
- 導入段階と追究段階でのそれぞれのねらいにあった調査・観察活動の対象と資料の発掘を行い、児童の実態に即して改善を加えていきたい。

研究主題

＜第5学年分科会＞

児童一人一人が産業や国土の様子について、自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の工夫 —— 「話し合い活動」を通して ——

I 研究主題の設定の理由

5年の社会科では日本の国土全体を視野に置きながら、産業の特色や様子及び産業と生活との関連について学習する。産業や国土の学習では児童にとって耳慣れない用語や資料などが急に増えることもあり、自分の生活とのかかわりとしてとらえにくい傾向がある。また、表現力が不足し、友達と互いの意見をかわしあう場面が少なくなっているとの指摘もある。児童の生活では会話もせずに過ごす場面が増え、社会科の学習においても友達とのかかわりを深めることが大切だと受け止めている。

そこで、互いの意見を出し合いよさを学び合うための「話し合い活動」に焦点をあてることにした。「話し合い活動」は他の様々な活動と結び付いており、有意義な話し合いによって社会的事象に対する自分なりの見方や考え方を深めていくことができると考えたからである。また、自分の思いや考えを表現し、友達とかかわり合うことで問題意識が明確になり主体的に学習が進められるようになると考える。その際、教師は効果的な話し合いになるように活動や形態を工夫し、一人一人の児童が自分の考えを持てるように支援をする必要がある。

以上のことから児童一人一人が社会的事象に対する自分なりの見方や考え方を深めていく

ためには、児童が友達とかかわりながら自分のよさや可能性を発揮できるような「話し合い活動」を学習過程に位置付け、評価と支援の工夫を図ることが大切であると考え、本研究主題を設定した。

II 研究のねらい

「話し合い活動」を通して、児童一人一人の社会的事象に対する見方や考え方を深めていくための評価と支援を明らかにする。

III 研究の仮説

問題解決的な学習過程の中に「話し合い活動」を位置付け、一人一人のよさを生かす評価と支援を工夫することによって、児童は社会的事象に対する自分なりの見方や考え方を深めていくことができるようになる。

IV 研究主題について

1 「話し合い活動」について

「話し合い活動」は、児童の見方や考え方を深めるための一つの有効な学習活動である。

「話し合い活動」の利点をまとめると次のようになる。

- 社会的事象の多様な側面を知ることができ、事象についての理解が多面的になる。
 - 自分とは異なる見方や考え方を知ることにより、それまでの自分の見方や考え方を確認したり、補ったり、修正したりすることができる。
 - 友達の考えに学ぼうとする態度、友達を認め受容しようとする態度を身に付けていくことができる。
 - 自分の考えを明確にもち、それを相手に伝えられるように工夫することができる。
 - 多様な考え（情報）の中から、自分にとって必要なものを選ぶことができるようになる
- 本分科会では、先ず「話し合い活動」として、主に次のような活動を考えた。

○フリートーキング ○教え合い ○情報交換 ○発表会 ○討論 ○報告・検討会

そして、このような「話し合い活動」を、ねらいに応じて「つかむ・追究する・まとめる」という問題解決的な学習過程に位置付けることによって、児童の見方や考え方をより深めていくことができると考えた。

2 「一人一人のよさを生かす評価と支援」の工夫について

本分科会では、評価と支援のねらいを次の三点とした。

- (1)児童が問題意識・追究意欲をより高められるようにする。
- (2)児童が自分や友達の考えのよさに気付くことができるようにする。
- (3)児童が自分の見方や考え方の深まりを自覚できるようにする。

そして、上記のねらいを達成していくために、次のような工夫をした。

ア. 豊かなつぶやきをうむ学習材の提示……………「話し合い活動」は、社会的事象と出会った児童のつぶやきが契機となって始まると考えられる。児童から多様なつぶやきが出るような学習材を開発し、効果的に提示することが必要であると考えた。

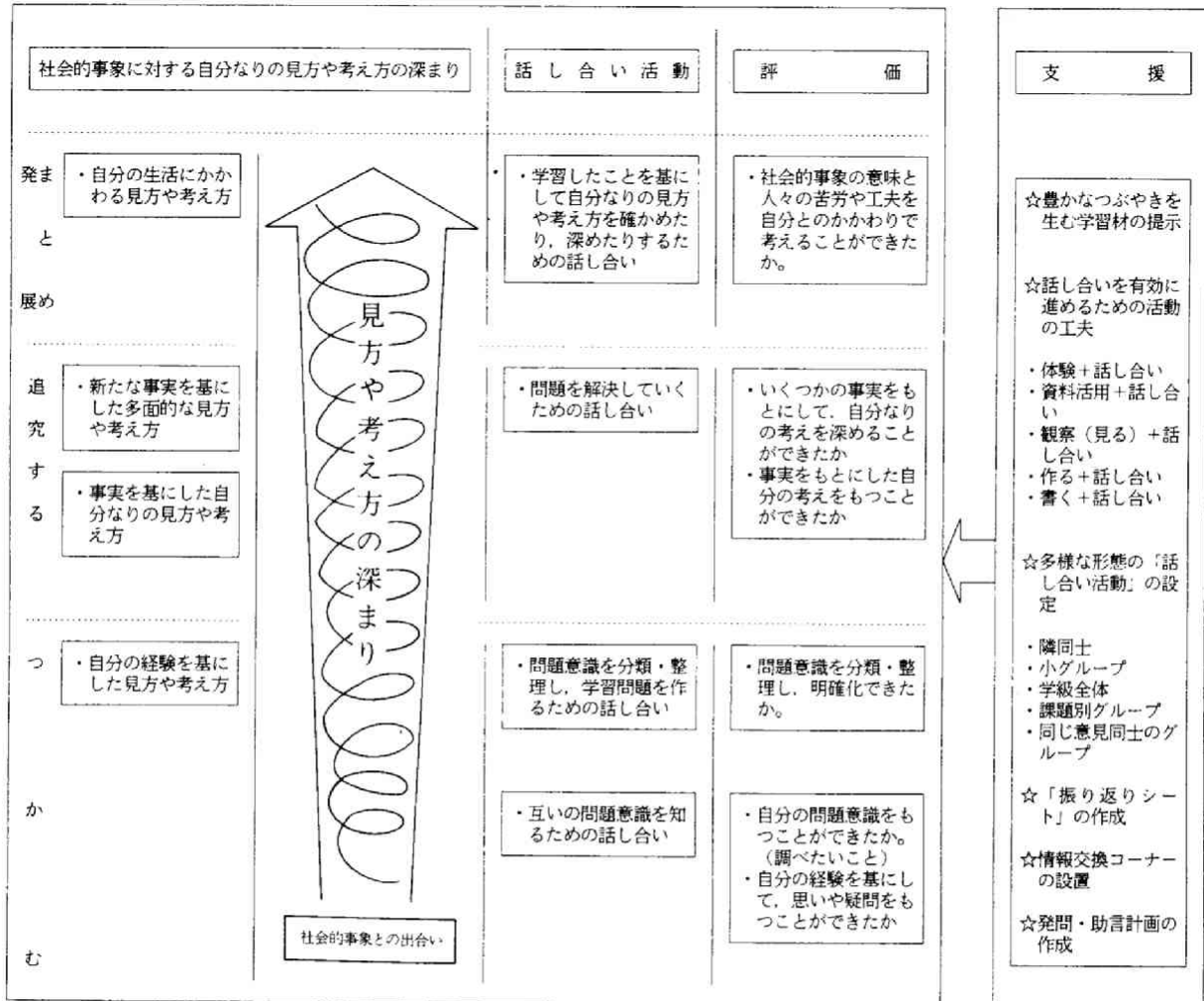
イ. 多様な体験的活動との組み合わせ……………多様な体験的活動と「話し合い活動」をつなげることにより、一人一人の児童が自分なりのこだわりをもって、「話し合い活動」に意欲的に参加できるようにした。

- ウ. 多様な形態の「話し合い活動」の設定……隣り同士、小グループ、学級全体、課題別グループなど、多様な形態の「話し合い活動」を設定した。
- エ. 「振り返りシート」の作成……児童が、自分の学習を振り返り、見方や考え方の深まりを自覚できるようにするとともに、次の学習への見通しやめあてをもったり学習のしかたを修正したりできるように、単元を通して記入する「振り返りシート」を作成した。
- オ. 情報交換コーナーの設置……「教えます、教えて下さいコーナー」を教室に設け、児童同士の双方向のコミュニケーションが日常から行われるようにした。
- カ. 発問・助言計画の作成……予想される児童の反応を踏まえた発問・助言計画を作成し、「話し合い活動」の中で教師の働きかけが速やかに行えるようにした。

3. 研究の方法

観察対象児を選び、「話し合い活動」及び単元を通しての児童の社会的な見方や考え方の変容を、児童の発言・記述内容、作品などを基に分析する。そして、「話し合い活動」における児童の社会的な見方や考え方を深めるための評価と支援の在り方を明らかにする。

《研究構想図》

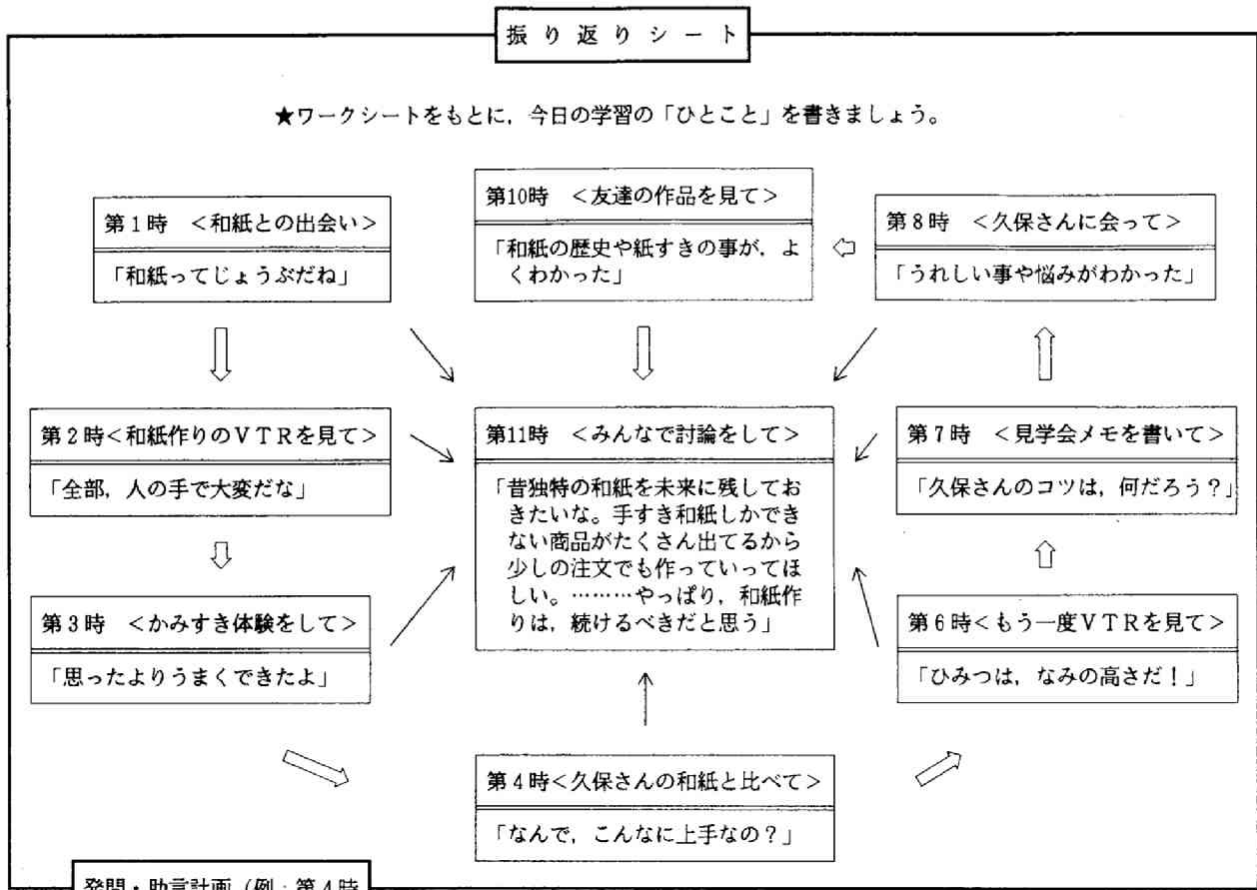


V 仮説の検証『小川の和紙作り』の授業実践より

時	主な学習活動・内容	話し合い活動のねらい・形態	話し合い活動への支援
つ	①和紙を見て気付いたことを書き、発表し合う。	①一人一人のつぶやきをもとに驚き・発見・感動を互いに知るための話し合い	☆学習材の提示(和紙) 提示方法 一人一人に和紙を配り自由に触れさせる。
	②和紙に触れ、思い思いの作業(切ったり、濡らしたり、破いたり等)をして気付いたことを書き、発表し合う。	②作業を通しての驚き・発見・感動を互いに知るための話し合い ⇒ <小グループ>→<全体>	☆作業 + 発表 (和紙に触れる)(話し合い)
	③和紙についての疑問を書き、発表し合う。	③一人一人の最初にもった問題意識を互いに知るための話し合い ⇒ <全体>	☆形態の工夫 (グループ→全体)
か	①和紙作りの工程の絵を見て、作り方の順序を予想し並べる。 ②VTRにより、和紙作りの工程と原料について知る。	①和紙作りの工程を予想することにより、和紙作りへの意欲を高めるための話し合い ⇒ <小グループ>	☆作業 + フリー (工程の予想) トーキング
	③紙すき体験をする。	③体験の中でうまくすけるような方法をさぐり出すための話し合い	☆体験 + 教え合い (紙すき)
む	①紙すき体験の感想を発表し合う。	⇒①紙すき体験を振り返るための話し合い ⇒ <全体>	☆形態の工夫 全体→(グループ→全体) (隣同士→全体)→全体→
	②自分の和紙と友達の和紙とを比べ互いのよさを見つけて発表し合う。	②自分と友達の和紙を比べ、和紙を比べる視点を明らかにするための話し合い ⇒ <グループ>→<全体>	☆作業 + 発表 全体 (友達の和紙と自分の和紙の比較)
	③小川の和紙職人の和紙と自分の和紙とを比べ気づいたことを書き、話し合う。	③視点をもつて比べ、職人の和紙のよさに気づくための話し合い ⇒ <隣同士>→<全体>	☆作業 + 話し合い (職人の和紙と自分の和紙の比較)
	④職人の和紙と自分の和紙とを比べて出た疑問を発表し合い、学習問題を作る。 久保さんはどうして上手に和紙を作ることができるのだろう。	④学習問題につなげるための話し合い ⇒ <全体>	☆体験(紙すき) 作業(和紙比べ)+話し合い 学習問題
	⑤学習問題に対する予想を立て発表し合う。	⑤学習問題を明確にし、追究の見通しをもつための話し合い ⇒ <全体>	
追 究 す る	①学習問題をもとに学習計画を立てる。 ②学習計画について話し合い、計画に修正を加える。	⇒①一人一人が追究の見通しをもてるようにするための話し合い <グループ> ②友達の良い点を取り入れるための話し合い <グループ>	☆教え合い ☆教え合い
	①一人一人の計画に従って追究をする。 ②追究の途中で良い調べ方や資料の活用法についてのミニ発表会を行う。	⇒②友達の考えや追究方法の良い点を自分の考えや追究方法に生かしていくための話し合い ⇒ <グループ>→<全体>	☆資料の提示 (一人一人の問題意識に合った資料) ☆作品作り+ミニ発表会 ☆情報交換コーナーの設置
	①和紙工場を見学し、和紙作りに携わる人の様子を調べる。		☆体験的活動(見学)
ま と め ・ 発 展	①見学や和紙作りの職人さんの話から、新たに分かったことを情報交換しまとめる。	⇒①発見したこと、確認したこと、新たな疑問などを情報交換しまとめるための話し合い ⇒ <グループ>	☆作品作り+フリートーキング
	①追究した問題について発表する。 ②友達の考えを聞いて新たに分かったことをまとめる。	⇒①学習したことを基にして考え、友達との意見交換によって、さらに考えを広げたり、確かなものにしたためるための話し合い ⇒ <グループ>→<全体>	☆作品+発表会
	①今までの学習を生かして、伝統工業の今後について検討する。	⇒①和紙作りを例に、発展的問題について自分なりの見方や考え方を深めて行くための話し合い ⇒ <全体>	☆同じ意見同士のグループでの 作戦タイム ☆討論会
	小川の和紙職人さんは、手すき和紙の生産を続けるべきである。		

A 児の見方や考え方の変容	◎ 評価 ○ 支援
<p>はじがギザギザ、がんじょうそう、はしが茶色、再生紙みたい</p> <p>↓</p> <p>繊維が1cmザラザラとツルツルの面 消しゴムで消すとボワッ、折れ目がつきにくい</p> <p>↓</p> <p>友達 ペンで書くとにじむ。とかしてくっつけてかわかすと再生する</p> <p>和紙についてのはじめの疑問</p> <p>苦労や悩みは何か</p> <p>原料・作り方</p> <p>歴史</p> <p>昔の使われ方や歴史</p>	<p>◎関心を示し、積極的に手をあげて自分の意見を発表しようとした。(行動・発言)</p> <p>○和紙に触れたり、友達と調べたりできるよう自由に活動する場と時間を確保した。</p> <p>◎友達の意見を参考にして和紙に対する視点を増やした。(ワークシート)</p> <p>○友達の意見を取り入れる大切さを示唆し、認めた。</p> <p>◎第1時から人に着目できている(ワークシート)</p> <p>○人への疑問を大切にしよう助言した。</p>
<p>ほぼ正確に予想する</p> <p>全部、人の手では大変</p> <p>今は機械が多いが細かい所は人間がやらなければいけないか。</p> <p>今と昔では何分ぐらい作る時間が減ったか</p> <p>すくのは思ったより簡単だった。</p> <p>横からすくうようにすると穴があかない。</p>	<p>◎作り方については、本時でVTRによって調べ技術へ目が向いていった。(ワークシート)</p> <p>○VTRにより、問題意識が具体的になっていることを認め、分類・整理した。</p> <p>◎友達の活動を見ながら教えたり上手なすき方を工夫したりする場面が見られた。(行動)</p> <p>○工夫をしている点について認めた。</p>
<p>乾いていないときの方がきれい</p> <p>久保さんの紙は、コウソの線みたいな物が少ない。久保さんの紙は、厚さがどれも同じ。</p> <p>どうしてこんなにうまくできるのか</p> <p>友達の意見を聞いて 工夫は何か?</p> <p>何年もやっていると上手になっていったと思う。力があるから、重いものでもすぐ動かして紙がまざるのがはやくい。</p> <p>かわかすときにのぼすのがへただったから、しわができた。はけを使っていた。きずが付きそうだったのに、なんであんなにきれいなのか。</p>	<p>◎すいた後と、乾いてからの和紙の評価が逆転し、学習問題につながった。(振り返りシート)</p> <p>○気付きを生かして人の苦労や工夫に追究が向かうよう助言した。</p> <p>◎体験を基に、自分で学習問題を作ることができ、友達との話し合いから問題の視点を増やしていることを認めた。(ワークシート)</p> <p>◎体験を生かした予想や人に視点を置いた予想を立てていることを認めた。(ワークシート)</p> <p>○「力があるから……」という点については、見学の時に確かめるよう助言した。</p> <p>○工程を思い出させ、様々な技術の工夫について気付かせた。</p>
<p>見学前の問題意識</p> <p>作る時大変なことは何か。悩みは何か。1人前になるには何年かかるのか。</p> <p>上手に作るコツは何か。上手に作るための工夫は何か。</p> <p>何年ぐらい前から作っているか。今と昔では何分ぐらいの時間が減ったか。昔の使われ方がどのように使われたか。</p>	<p>◎初めての疑問に「上手に作るコツ」という視点が付け加えられ、問題意識の深まりが見られる。(ワークシート)</p>
<p>見学メモより</p> <p>ゴミとりは、こうぞの皮の部分を取って根気があると思える。</p> <p>「しぼった水はあっちの方へ流れてしまふ」と言っていた。木だから池に害はないこと思う。</p> <p>久保さんの所は自然を尊重して、昔ながらの工業の特徴だと思える。</p>	<p>◎意欲的に見学・取材を行い、要点を簡潔にメモしていた。(行動)</p>
<p>主な追究内容</p> <p>後継者がいないことや、売り上げが減っているのにかかるとは本にまとめた。思い通りの紙ができた時売れた時がうれしい。</p> <p>上手にすくうには数をこなすこと。厚さはとつめいさで判断する。ヨーロッパにも手すき紙がある。かき回す時、まんがを利用。(30年前は手で作っていた。)すきすきを冷たい方がよく出る。外国産(主にタイ)のコウソは成長の早い分せんいが弱い。</p> <p>1200年以上前の作り方が今も残っている。</p>	<p>◎友達と地域の図書館へ行き、資料収集を行った。(聞き取り)</p>
<p>おたすけ伝言板への情報提供</p> <p>「牛乳パックをちぎった物をミキサーにいれて、水とのりでかき混ぜてすくうサイクル紙ができる」というのを聞いたことがあります。</p> <p>◎和紙のできるまで ○いろいろなQ&A</p> <p>友達の発表を聞いて</p> <p>◇H君 すにはじょうぶな竹しか使わない。機械すきすきの和紙の方がうすくできる。</p> <p>◇N君 和紙の歴史がわかる。</p> <p>◇Oさん ねりは時間がたつとなくなる。</p> <p>◇I君</p>	<p>◎自分の経験を基にして、進んで友達に情報を提供しようとした。</p> <p>◎友達の学習計画も参考にしながら、本の形にまとめることを決めた。</p> <p>◎友達の作品から和紙の歴史や道具について認識を深めていた。(メモ)</p> <p>○自分になかった視点に着目しよう助言した。</p>
<p>続けるべきだ。理由</p> <p>丈夫で長持ち。環境が良い。昔からあるものだから残すべき。</p> <p>「文房具屋にワープロ用の和紙があった。いろいろな使い方を工夫していけばいいと思います。」</p> <p>「手漉き和紙のサイン帳があった。これからも独特の商品を開発して、小川の和紙作りのよさがあると思います。」</p> <p>「機械すきすきの和紙に変えていく」という意見に対しては、手すき和紙には手作りのよさがあると思います。」</p> <p>私は、昔から伝えられてきた日本独特の和紙を未来に残しておきたいです。</p>	<p>◎友達と相談の時間を設けた。(作戦タイム)</p> <p>◎友達の意見をよく聞きながら和紙作りに対する自分なりの見方や考え方を明らかにした。(ワークシート)</p> <p>◎これまでの学習や経験を踏まえ、和紙に対する自分の思いを積極的に発表した。(発言)</p> <p>◎和紙のよさを、触れたときのあたたかさとしていた。(発言)</p> <p>◎自らの願いで学習をまとめている。</p>

《A児の「振り返りシート」の記録と発問・助言計画（例；第4時）》



発問	予想される児童の反応	助言計画
◇和紙を作ってみて、どうだったか感想を發表しましょう。	<ul style="list-style-type: none"> *手作りで和紙を作るのは大変だった。 *手作りで和紙を作るのは難しい。 *とてもうまく作れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体験に基づいた具体的な感想が出るようにする。 ・どんなところが大変だったのかな? ・一番苦労したのは、どんなところ? ・道具を使って再現してみよう。 ・セールスポイントはどこですか?
◇久保さんの和紙作りの秘密について予想してみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> *すきすの振り方が違うのではないか。 *いい道具を使っているのではないか。 *原料の混ぜ方が違うのではないか。 *心の込め方が違うのではないか。 *予想が立てられない。 *こういう予想でいいのかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習が想起できるように工夫する。 ・自分がすいた時のこと（第3時）と職人の和紙作りのVTR（第2時）を思い出して比べて見よう。 ・和紙作りの工程を思い出して、秘密を予想して見よう。（写真提示） ○友達のを参考にし、調べていくための視点を持つことができるようにする。 ・○○さんはこんな予想を立てて、調べていくそうです。（友人の意見紹介）

※この「振り返りシート」は、その時間の最後に、自分のワークシートを見ながら、今日の学習の「ひとこと」と称して、キーワード的に書いたものである。

第11時（まとめ）を見ると、前時に友達作品から、和紙の歴史を知ったことが、第11時の「……昔独特の和紙……」と言う言葉にいかされていることが分かる。また、第1時からの毎時間の学習の積み重ねが和紙作りへのA児の願いとしてまとめられている。

A児自身は、この「振り返りシート」を書くことにより、自分の和紙に対する気持ちの姿容を確かめつつ学習を進めることができた。

IV 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- 「ちぎる、書く、嗅ぐ、折る」など学習材との出会いを工夫し、和紙に触れ合う時間を十分に取ったことは、一人一人の豊かなつぶやきを生むのに効果的だった。
- 話し合い活動を紙すき体験と組み合わせたことにより、一人一人が学習問題につながる自分の考えをもてるようになった。また、全員が紙すきという共通体験をすることにより考える視点が共通になり、話し合い活動が充実した。
- 学習過程に話し合い活動のねらいを位置付けたことにより、1時間の中での話し合い活動を焦点化することができた。また、ねらいに応じた話し合いの形態も工夫することができて、話し合い活動の充実につながった。
- 振り返りシートを活用したことは、一人一人の見方や考え方の変容を見取るのに有効であった。また、シートを分析することにより、一人一人に応じた支援を工夫することができた。

2 今後の課題

- 一人一人の見方や考え方を深めるために、単元又は一単位時間の中での効果的な話し合い活動の組み合わせを考える。
- 話し合い活動を通じた一人一人の思考の深まりをより丁寧に見取る方法について、振り返りシート以外の方法について研究を進める。

研究主題

＜第6学年分科会＞

児童一人一人が、歴史的事象に対する自らの問題を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の工夫

I 主題設定の理由

児童一人一人が、自ら考え判断し行動することができる能力を身に付けることは、これからの変化の激しい社会を主体的に生きていく上で重要なことである。これらの能力を身に付けることができるようにするためには、児童一人一人が、自分の中に自分なりのものの見方や考え方の基礎をつくっていく必要がある。

そこで、歴史的な学習においても、児童一人一人が主体的に学習に取り組み、自分なりの歴史的な見方や考え方を身に付けられるように、より一層の評価と支援の工夫が求められている。

歴史的な学習の中で、児童が、自分なりの歴史的な見方や考え方ができるようになるためには、自分で立てた学習計画を基に、自らの問題を追究する問題解決的な学習が重要である。そして、更に学習活動の中で発揮される児童一人一人の思考や判断、表現などの状況を、教師が共感的に評価し、その評価に基づいた適切な支援を工夫していくことで、児童は自分なりの見方や考え方を、見直し、広げ、より深めていくことができると考えられる。

以上のような理由から、上記の研究主題を設定し研究を進めることにした。

II 研究のねらい

児童一人一人が、歴史的事象に対する自らの問題を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めていくための評価と支援の在り方について明らかにする。

III 研究の仮説

歴史的な学習におけるねらいを明確にし、評価の視点を設定することによって、具体的な支援が可能となり、児童は、歴史的事象に対する自らの問題を主体的に追究し、自分なりの見方や考え方を深めていくことができる。

IV 研究の内容と方法

1 歴史的な学習のねらい

第6学年の社会的思考力・判断力にかかわる目標に、「我が国の歴史にかかわる社会的事象の意味をより広い視野から考えるようにする」ことが示されている。この目標は、社会的事象（歴史的事象）の意味を考える力を育てることを通して、児童一人一人が歴史的な見方や考え方を身に付けられるようにすることを目指している。

歴史的な学習では、児童が、歴史上の代表的な人物や文化遺産を具体的に学習する過程で、常に変化や発展をしている歴史的事象を見たり、考えたりして、歴史的な意味をとらえられるようになることが重要である。つまり、歴史的な学習で育てたい歴史的な見方や考え方は、歴史的事象の「変化や発展」を認識するための見方や考え方である。さらに、この学習で深めた「変化や発展」を認識するための見方や考え方を、これからの学習や生活に生かし、絶えず自ら深めていくことで、児童は、これからの変化の激しい社会に主体的に対応して生きていくことができるようになると考えられる。

本分科会では、特に社会的思考力・判断力にかかわる目標に重点を置き、歴史的な学習のねらいを以上のようにとらえた。そして、このねらいに基づいて、評価と支援の在り方について考えていくことにした。

2 歴史的な学習を通して育てたい児童の姿

本分科会では、歴史的事象について自分なりの見方や考え方を深めることができる児童を次のようにとらえた。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 歴史的事象を前の時代と比較したり、関連付けたりしてとらえることができる。② 人物の果たした役割をつかむことができる。③ 時代の特色を、事実・根拠に基づきながら説明できる。④ 歴史的事象や、世の中の情勢などの変化をとらえることができる。⑤ 歴史的事象のもつ意味を自分とのかかわりで考えることができる。⑥ 自分なりにその時代のイメージをもつことができる。 |
|--|

3 評価と支援の工夫

児童が自分なりの見方や考え方を深めていくためには、教師が、児童の学習状況、見方や考え方の変容の様子を継続的にとらえ、その結果を基に、適切な支援を繰り返し行うことが大切である。そこで、本分科会では、次のような評価と支援の工夫を考えた。

(1) 評価の視点 — 児童の学習状況，見方や考え方の変容を見取る視点 —

- | |
|-----------------------------|
| ① どのようなイメージをもっているか。 |
| ② どのような問題をもてたか。 |
| ③ 歴史的事象の特色や変化をどのように表現しているか。 |

(2) 評価の方法 — 児童の学習状況，見方や考え方の変容の見取り方 —

- | | |
|--------------|-----------------------|
| ア 事前調査の分析 | エ 『ふりかえり』カード（自己評価）の分析 |
| イ 発言やつぶやきの分析 | オ 資料メニューの活用の分析 |
| ウ 行動・表情などの分析 | カ ワークシートや作品などの分析 |

<分析の視点>

評価の視点に対して，下のa～lまでのような分析の視点を設定した。また，評価の方法との関連は，マトリックスで示したように考えた。

	ア 事前 調査	イ 発言・ つぶや き	ウ 行動・表 情等	エ 振り返 りカー ド	オ 資料メ ニュー の活用	カ ワークシ ートや作 品等
○ 評価の視点①						
a イメージの基になっているものは何か。	○	○				○
b イメージの何が，どのように変わったか。		○		○		○
○ 評価の視点②						
c どんな歴史的事象に対して驚きや疑問をもったか。		○	○	○		○
d 予想の根拠は何か。		○			○	○
e どんな学習計画を立てているか。		○		○	○	○
○ 評価の視点③						
f どんな発見をしたか。		○		○		○
g 何と何を比較しているか。		○			○	○
h 何と何を関連付けているか。		○			○	○
i どんな立場に立って考えているか。		○	○	○		○
j 友達と何について情報交換したか。		○	○	○		
k 情報交換によって，自分の考えの何が変わったか。		○				○
l どんな根拠を基に変化や特色を説明しているか。		○				○

(3) 支援 — 一人一人の児童の見方や考え方を深める支援 —

評価を生かしながら，児童一人一人が，更に見方や考え方を深めていくために，どのような支援をしていけばよいかについての計画を立てる。そして，学習活動の中で，児童一人一人の追究活動に応じた適切な支援を行う。その際，学習活動や学習内容との関連を図り，評価と支援の一体化を図るようにする。

<支援の例>

- | | |
|---------------|------------------------|
| ① 資料の提示をする。 | ③ 情報交換を促したり，場を設定したりする。 |
| ② 個に応じた助言をする。 | ④ 共感的に認め，励ます。 |

4 実践事例

(1) 事例 1 単元名 大阪や江戸の文化（7時間扱い）

「追究活動において、資料メニューを活用することにより、『児童の自分なりの見方や考え方』を深めていった事例」

① 本実践における観察対象児K児の見方や考え方の変容

	〔学習内容〕	〔評価の視点と教師の支援〕	〔K児の反応と評価の方法〕	〔K児への支援と見方や考え方の見取り〕
事前調査		評・どのようなイメージをもっているか。視点① 支・自由に記入するように促す。支援②	いろいろなものが発達した時代。方法アイ	支「思っていることをそのまま書きましよう。」支援② 評・前の時代と比較している。分析の視点a
気づく	第1時 江戸の町の様子をまとめ、感想や疑問をもつ	評・新たなイメージをもつことができたか。視点②③ 支・絵による資料の提示。支援①②③④	にぎわいのある平和な町。また、商業が発達している町。方法イエカ	支「言葉をまとめて表してみよう。」支援①② 評・自分なりのイメージをもつことができた。分析の視点c, f
	第2時 町人の暮らしの様子について調べ、共通の学習問題を作る。	評・新たなイメージをもつことができたか。視点②③ 支・第2の資料の提示。 支・具体物などでイメージを膨らませるようにする。支援①②③④	町人の仕事時間を調べる。 商人の人は朝早くから夜まで働かされていて、食事もうろくにしていないということがわかった。方法イエカ	支・町人の一日の生活時間を表した資料を提示する。支援①② 評・当時の人の立場に立って考えている。分析の視点c, f, l
明確にする	全体の学習問題……「江戸時代の文化にはどんなものがあり、どのようにおこったか調べてみよう。」			
	第3時 個別の学習問題を作り、予想をもつ。学習計画を立てる。	評・根拠をもって予想しているか。 ・自分なりの予想をしているか。視点② 支・他の事象や時代と比較するように促す。支援②	《個別の学習問題》 洋学や俳句はどういう影響を与えたのか。方法カ 「予想」 → 洋学ができて、病人なども治る人が多くなった。文化は人に安らぎを与える方法オカ 資料7点を使用する計画。	支・資料メニューの提示。 「町人は楽しい思いはしなかったのだろうか。」 「問題を解決するにはどんなことがわかればいいのか。」支援①② 評・前の時代の文化の特徴と比較して予想している。室町文化と同じものと考えている。分析の視点c, d, e
追究する	第4・5・6時 個別の学習問題にしたがって、資料メニューを活用して調べまとめる。	評・自分なりの考えをもつことができたか。 ・まとめて考えることができたか。視点③ 支・比較、関連付けをするように促す。 ・声かけをする。 「～はどうしてなの。」 「あなたはどう思う。」 ・情報交換の場を設定する。支援①②③④	江戸時代の文化はある人が一生懸命努力をして、それをきっかけに一般の人が感心し、それから大勢の人がやるようになり、文化がおこってきている。また、文化は国民にゆとりを与え、助けたりしている。方法イウエオカ	支「分かったことを比べて考えてみよう。」 「前の時代と比べてみよう。」 「友達と情報交換をして新しい発見をしてみよう。」支援①②③④ 評・関連付けて考え、まとめることができた。 ・比較して考えることができた。分析の視点f, g, h, i, j, k, l
	第7時 発表会を行い自分なりの考えをまとめ、江戸時代の文化のイメージをまとめる。	評・自分なりの見方をしているか。 ・イメージをもつことができたか。視点①③ 支・発表会を設定する。 ・自分なりの言葉でまとめるよう促す。支援②③④	江戸時代の文化は、一つ一つ個性的なようなものも多く、人それぞれ考えることが違うんだなと思いました。方法イウエカ	支「ほかの人の考えたことと自分の考えを比べてみよう。」 「あなたはどうか考えたのかな。」支援②③④ 評・自分の言葉で考えをまとめることができた。 ・文化の特徴についてのイメージをふくらませることができた。分析の視点b, i, j, k, l

② 考察

資料メニューの活用を分析することで、学習計画を立てる段階において、資料メニューから選んだ資料を把握することができ、K児の予想の根拠やこれからの学習の進め方を見取ることができた。また、K児は学習計画の中で七つの資料を選び、追究を進めていくうちに、一つの資料をやめ、二つの資料を追加した。追究段階での資料メニューの活用を分析することで、K児の学習状況を把握することもできた。これらのことから、資料メニューの活用は見方や考え方の変容を見取る上で有効であったと考える。

(2) 事例 2 単元名 天下統一（7時間扱い）

「歴史的人物の業績を追っていく中で、児童のワークシートや発言・つぶやきをとらえることにより、『自分なりの見方や考え方』を深めていった事例」

① 本実践における観察対象児 I 児の第 4 時、第 5 時における見方や考え方の変容

全体の学習問題

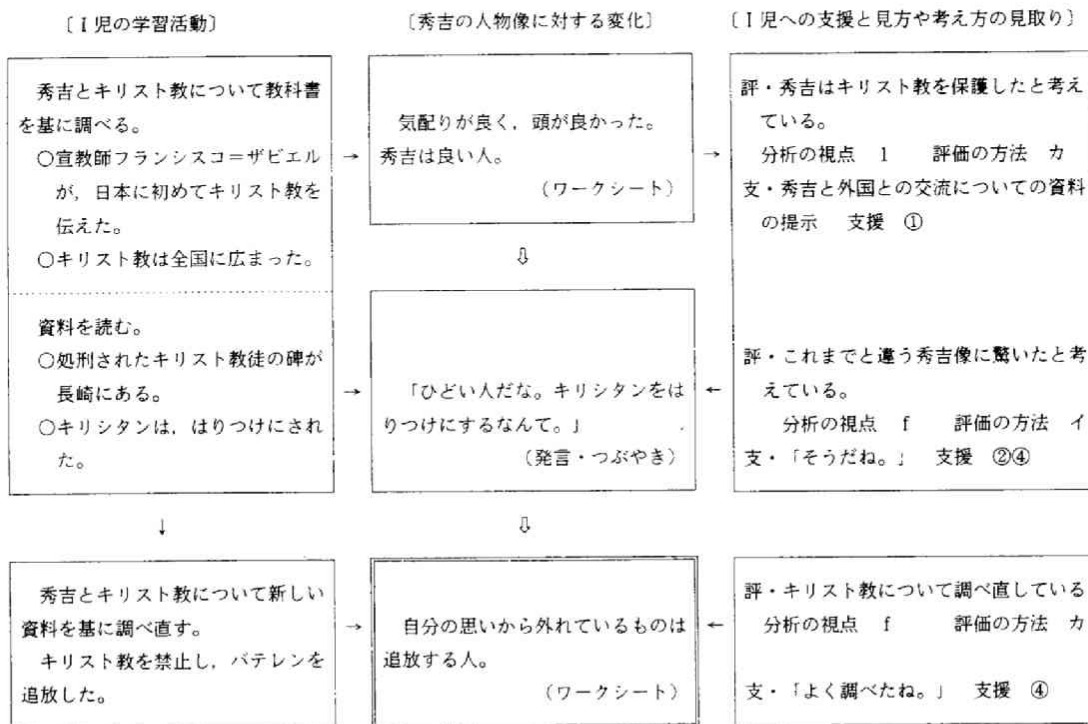
3人の武将それぞれが天下統一にどうかかわったか調べ、どのように天下統一されていったのかまとめよう。



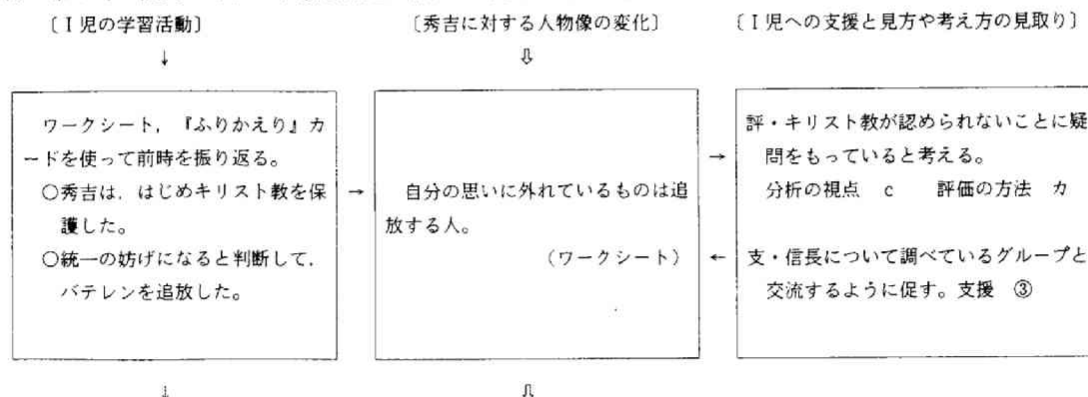
I 児の学習問題

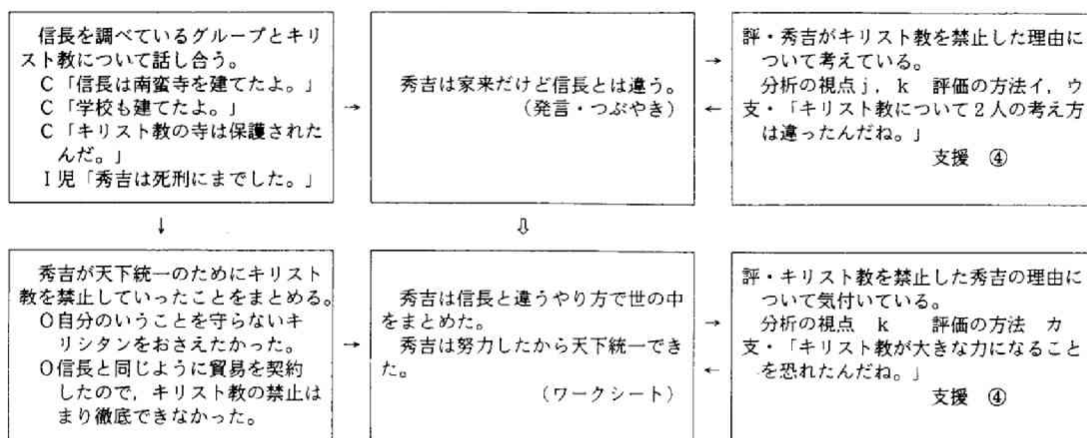
豊臣秀吉がどのように天下統一をしていったのかを調べていく。

★第 4 時 キリスト教に対する秀吉の姿勢について調べる。



☆ 第 5 時 信長のキリスト教政策と比較して禁教の理由を考える。





② 考察

第3時までのワークシートの分析から第4時では、資料提示や助言を行うことによって、I児は、キリスト教を迫害した事実に驚き、秀吉のしたことに目を向けることができた。さらに、第4時の学習カードを分析することで情報交換の場を設定することが可能となった。I児は時代背景を知り秀吉像をもつことができた。このことから学習カードや発言の様子を分析することは児童の見方や考え方を深めていくのに有効であった。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

- 児童が、時代に対してどんなイメージ（見方や考え方）をもっているか事前調査を行うことによって、「どんな驚きや疑問をもっているか」「何と何を比較・関連しているか」など、より具体的なイメージ（見方や考え方）を把握することができた。これらは、単元のねらいに迫るために有効であった。
- 問題解決的な学習過程に即した一単位時間ごと、単元ごとの評価の視点を設定し、児童の『ふりかえり』カードやワークシート、発言、つぶやきから個々の学習状況を分析・把握する。これらによって、児童の見方や考え方の変容がわかり、個別の支援内容、方法を具体化することができ、児童は自らの学習問題を主体的に追究しようとする意欲が高まった。
- 児童が自らの問題を持ち、学習計画を立てた上で、自分が調べた知識や情報、歴史的事象に対する見方や考え方を交流し合えるような学習活動を取り入れた。こうすることによって、児童は新しい知識や情報、自分と異なる見方や考え方に出会い、時代に対するイメージをふくらませ、自分なりの見方や考え方を深めていくことができた。さらに、自分や友達のもつよさを再発見することができた。

2 今後の課題

- 歴史的事象に対する自分なりの見方や考え方の深まり状況を評価するための視点や、個々の児童に対する支援一覧表を作成するなど支援内容、方法についてより明らかにする。
- 自分なりの見方や考え方をより深めていく情報交換、相互評価ができるような学習活動を工夫していきたい。